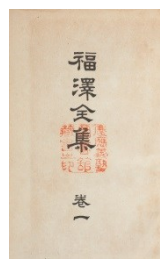
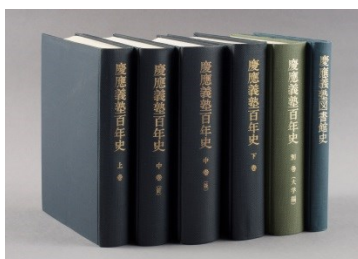


Google ブックス図書館プロジェクトでデジタル化した蔵書について

慶應義塾図書館（三田メディアセンター）は、慶應義塾大学創立 150 年記念事業の一環として、Google ブックス図書館プロジェクトに参加し、2007 年 7 月から 2010 年 12 月までに、著作権の保護期間が終了した約 10 万冊のデジタル化を行いました。同プロジェクトでデジタル化したコレクションの概要を以下に紹介します。

1. 慶應義塾大学の刊行物および福沢諭吉の著作

慶應義塾大学の刊行物で、公開の許諾のとれた『慶應義塾百年史』『慶應義塾図書館史』や、慶應義塾の創立者福沢諭吉の著作『福沢全集』など 173 冊です。これらは慶應義塾創立 150 年にあたる 2008 年 1 月に先行して公開しました。



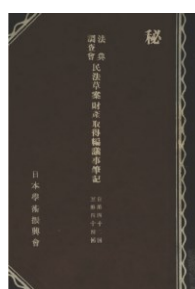
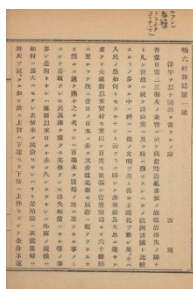
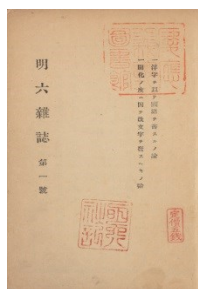
2. 1941 年以前に出版された洋装本（旧分類図書）

“旧分類”と呼ばれる当時の慶應義塾大学固有の分類法により配架されている資料群です。開館以降収集してきた和書で、当時の教科書や人文・社会学系の研究書に加え、文学書も多く含まれます。著作ごとにすべての著者（口絵、前書き、後書き等）の著作権保護期間が終了していることを調査・確認の上、約 2 万 3 千冊をデジタル化しました。

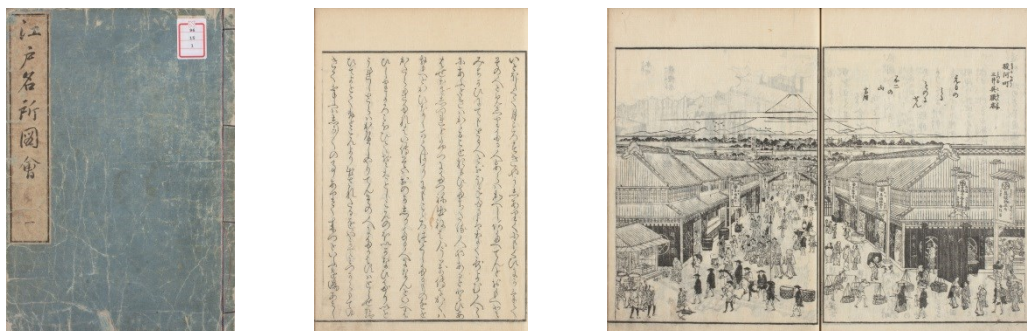


3. 年鑑・統計・雑誌、法典調査会議事速記録

1945 年以前に刊行された『通商彙纂』等の政府刊行物、団体刊行物である年鑑・統計に加え、明治期刊行の『明六雑誌』等約 5 千冊をデジタル化しました。このほか、日本学術振興会が編纂した『法典調査会議事速記録』等 269 冊も対象としています。



4. 和装本（江戸中期～明治初期）



江戸時代中期頃から1889年までの和装本約7万1千冊です。江戸時代から明治時代初期の和装本で、古典籍およびその注釈や研究書を中心に分野は多岐に渡ります。刊本のほか、未刊写本を含む写本もあり、漢籍は和刻本が多くを占めます。また、慶應義塾大学の教員や卒業生から寄贈された、特徴ある個人文庫コレクションが収録されています。（貴重書、古文書、一枚ものの絵図・錦絵等はデジタル化の対象外です）

収録されている主な個人文庫コレクション

門野重九郎狂歌文庫（狂歌）

狂歌師であり、狂歌文献の収集家だった野崎左文(1858-1935)の旧蔵書に狂歌界の巨匠・秋農屋望成(1861-1945)の旧蔵書が加わった狂歌関係のコレクション。

幸田文庫（国史）

幸田露伴の弟で歴史家・蔵書家として著名な幸田成友(1873-1954)旧蔵書である幸田文庫のうち、和装本の大部分を収録。刊本のほか未刊写本を多く含む。

佐々木文庫（儒学、漢文学）

副島種臣(1828-1905)の門人で漢学者の佐々木哲太郎(1866-1925)の旧蔵書。漢文学、仏教、儒学関係書が多く、特に和刻本漢籍が豊富で佐々木自身の書き込みも多い。

高橋箒庵文庫（茶道）

実業家で茶道家としても有名だった高橋義雄(1861-1937)の旧蔵書。『大正名器鑑』の編纂のために収集した茶道・水戸学関連資料のコレクション。

渡辺刀水文庫（国学、歌書）

元軍人であり、平田篤胤研究で知られた国学者渡辺金造(刀水)(1874-1965)の旧蔵書。江戸時代の歌書、国学者の写本・手沢本などが多い。

*メタデータ（書誌レコード）について

- ・旧分類図書のメタデータは、国立国会図書館のJAPAN MARCを参照の上、各冊ごとに新規に作成した。一方、和装本、年鑑・統計・雑誌のメタデータは、各冊ごとでなくタイトル単位（一括書誌）で作成されている。
- ・和装本のメタデータは、簡易書誌レコード（著者名、書名の読みなし）として作成し、入力文字は現物の表記通りを原則としたが、特殊な異体字等は一部常用漢字に改めている。
- ・OCLC番号は取得しておらず、また分類、件名等は原則として付与していない。